

図書名	作者	推薦の理由(任意)
輿論と世論	佐藤卓己	「輿論」「世論」の違いや新聞の読み方の勉強になった
日本奥地紀行、朝鮮紀行	イザベラ・バード	150年前の日本と朝鮮を旅したイギリス女性の目で見、体験した旅の記録です。貧しい農村でも日本人としての矜持が感じられます。アイヌ民族との出会いも読みごたえがあります。
FACT FULNESS	ハンス・ロスリング	常識と思っていたことが、いつの間にか常識ではなくなっていることに気付かされた一冊でした。友人に勧められて読みました。
バカの壁とそのシリーズ	養老孟司	医者である作者の独特の視点が、良くも悪くも参考になりいろいろと考えさせられました。ただ、シリーズ数冊を読むと少し疲れます。
無印良女とそのシリーズ	群ようこ	ストレス解消には、もってこいの本です。無印良女、無印OL物語、無印不倫物語と読むうちにハマりました。50冊以上読んでます。
きまぐれロボット、ポッコちゃん	星新一	10代から20代にかけて、読み続けたショート、ショートです。どれもSFの原型ともいえる内容ですね。7月4日から月～木曜夜にNHKで放送されます。10時45分から15分です。
西の魔女が死んだ	梨木香	不登校になった主人公が、おばあちゃんと一緒に暮らすことになったのをきっかけに、その後に離れてしまってもいろいろと思いを巡らせる気持ちの動きが何とも言えない読後感になった作品でした。
ささやかだけれど役にたつこと (A Small, Good Things)	レイモンド・カーバー	一家を襲う悲劇にそと差し出される「ささやかなこと」。読後感が心に沁みる。カーバーは村上春樹が尊敬する作家で短編に秀作が多い。
クララとお日さま	カズオ・イシグロ	病弱な少女とAIロボットの友情と別離を“イシグロワールド”で描く。AIは人間を代替できるのだろうか？
蒼穹の昴	浅田 次郎	蒋介石を拉致する「兵諫」まで6部。近代史を浅田史観で小説に。春児始め想像上の人物も違和感なく溶け込んでいる
クリフтон年代記	ジェフリー・アーチャー	ストーリーテラーとして最高の小説家の代表作の一つ。6部からなり、ハリーが子供のころから亡くなるまでをイギリスを背景に描く。
たゆたえども沈まず	原田マハ	どちらを記入して提出したか覚えていないが、多分こちらだったと記憶している。ゴッホの生涯があまりにもかわいそうで泣けてくる。
楽園のカンヴァス	原田マハ	“素朴派”アンリ・ルソーの物語
みをつくし料理帖 全10巻	高田 郁	
あきない世傳 金と銀	高田 郁	
	葉室 麟	25冊ほど読みました。どの作品を読んでも、胸にじんときます。惜しいことに2017年12月に早世されました。
立花落々 [りっかふるふる] 祥伝社文庫	西條 奈加	
無敵の鈴 光文社文庫	西條 奈加	
大川契り 新潮文庫	西條 奈加	
せき超えぬ 新潮文庫	西條 奈加	
腐れ梅 集英社文庫	澤田 瞳子 (時代小説が得意)	
与楽の飯 光文社文庫	澤田 瞳子	
落花 中公文庫	澤田 瞳子	
「小説フランス革命」 18巻 集英社文庫	佐藤 賢一	フランス革命の激動期をわかりやすく提示してくれる
	保阪正康	在野 昭和史研究の第1人者、昭和史の歴史のひだの部分、一般人にも、わかりやすく解説。
ふりさけ見れば	安部龍太郎	日本書紀編纂、奈良の大仏建立時の時代小説であり、聖徳太子を理解することに役立つと思います。
EQ こころの知能指数	ダニエル・ゴールマン	自分の生き方、姿勢をどうするべきかの指針を示してくれた。
ローマ人の物語	塩野七生	西洋文明に大きな影響を与えたローマの歴史とローマ人の考え方がわかりやすく記載され、理解できた。
サビエンス全史	ユヴァル・ノア・ハラリ	人間の歴史を、これまでなかった切り口で読み解いた衝撃的な著書で、この年になって目からウロコが落ちた一冊です。『イネが人間を家畜化した！』この立場を変えた着想だけ見ても面白さが伝わりませんか!? 続編の「ホモデウス」もお勧めです。
心配事の9割は起こらない	栞野 俊明	人間関係に悩んだとき、ラクになります。
この国のかたちⅠ～Ⅵ巻	司馬遼太郎	エッセイ集ではあるが、日本という国を歴史的な観点から見つめなおし読者自身に考えさせる名著。(司馬史観の極?)
星を継ぐもの	ジェームス・P・ホーガン	人類及び太陽系の生い立ちを巡る広大な物語。70年代ハードSFの傑作。
もうちょっと「雑」に生きてみないか	和田秀樹	がんばりすぎない。もっとゆるやかに、揺れ幅を楽しむような生き方をしてみたい。
容疑者Xの献身	東野 圭吾	東野圭吾の最高傑作。映画化もされました。ミステリートリックもさることながら、人間心理が繊細に描かれており共感をえられる書籍。
告白	湊 かなえ	復讐を肯定した珍しい作品。思わず復讐に共感してしまう、人は性悪説との考えを強くする作品
マルクス資本論	佐々木 隆治	資本主義の終焉の兆候が現れ、ポピュリズムが蔓延する現在において新たな視点でマルクス自身のテキストとして読める入門書。
人新世の「資本論」	斎藤 幸平	脱成長コミュニティが世界を救うと説いた、コミュニティを新たな視点でとらえた、新進気鋭の大学教員の力作。
サビエンス全史 (上・下)	ユヴァル・ノア・ハラリ	あまりにもスケールが大きな歴史書。必読です。
天災から日本史を読みなおす	磯田道史	災害から命を守る先人に知恵
行きつ戻りつ	乃南アサ	
武田氏滅亡	平山 優	